

いたい。
という趣旨の内容であった。

3. 協 議

(1) 玉野市立玉野商工高等学校の募集定員について

(妹尾教育長) 総務文教委員会協議会での「定数削減を行わず、魅力化についてさらに検討して欲しい」という意見を元に再度協議をすることで、前回の教育委員会から協議を重ねているところである。合わせて、同窓会から提出された要望書も考慮しながら、今回も検討していきたい。

前回の協議では、今回は、定数削減を行わず、具体的な魅力づくりについて協議していくという意見が多かったので、本日はその方向で協議をお願いしたい。

在り方検討会議からの意見書の中に提案されている魅力化についての具体例について学校教育課長から説明をする。

(学校教育課長) 資料により説明

(妹尾教育長) 説明のあった魅力づくりやそれ以外での魅力づくりや取組みについてご意見をいただきたい。

(野田委員) 確認であるが、在り方検討委員会の意見書は、同窓会や総務文教委員には配布しているのか。

(学校教育課長) その当時の総務文教委員へは配布している。同窓会に対しては配布はしていないが、同窓会の方も在り方検討委員会の委員としておられたので、その方から伝わっているものと考えている。

(妹尾教育長) 同窓会の要望書の中にも適正規模化についての話し合いが持たれていることは承知しているとの記載があるので、こういう意見書が出ていることは知っている。

(野田委員) 食堂関係のことであるが、弁当業者が1業者入っているとの説明であったが、パンの販売業者は入っていないのか。

(学校教育課長) いない。

(野田委員) パンの販売業者も入って良いと思う。パンの移動販売が色々あると思うが、そういうところと交渉してはどうか。食堂を作るのは難しいと思う。

(妹尾委員) 今回のコロナのことで、市内でもテイクアウトに切り替えたとか、移住で来た方が新しくお店を立ち上げた業者が、宅配サービスを始めたところも多い。大きな業者でなくても個人業者で

も入ってもらって、例えば、商業科とコラボしてお弁当を作ってみるとか、この一つのお弁当を作るためにどのくらい経費がかかっているのかなど、カリキュラムの中に取り入れられるのではないか。商工高校ならではの新しい取り組みに繋がる可能性があるのではないか。コラボのやり方も考えてみると面白いのではないか。

(加藤委員)

麺類などであれば、移動販売車を入れるということも考えられる。きちんとした食堂は無理でも、本当にやるのであれば工夫次第で色々考えることができるのではないか。

全国募集の可能性についても、企業でもリモート面接を行って遠方の人を採用できたということがあったそうである。就職先として三井という可能性もあれば、他県からの応募がある可能性もある。

部活動の充実については、今、強い部活があるのであればバスの購入などの案も出来ると思うが、まずは、何かの部活動を特化して強くしていくということが始めではないか。

三井への就職を希望している生徒が多い。実績を作っていくと、安定した生活を求める層に対しては魅力になると思う。製造業が多いというところで、三井以外の他の企業も就職先があるということも先生が紹介していくことも必要である。大学に行きたいという生徒もいると思う。推薦枠があると魅力になる。

(学校教育課長)

商工高校に再編する時に、大学進学希望の生徒にも答えられるような学校ということも考えて、機械科は教育課程に工夫をしている。推薦枠というのをどのように取っていくのかというのは不明である。

(太宰委員)

一般的に普通科でセンター試験を受けていくのとは別だとは思いますが、学力の差を埋めるために、学校がどのようなフォロー体制を取っているのかがわからない。

(加藤委員)

商工高校卒業の生徒を見ると、たくさん資格を取っているし、やる気のある優秀な人がいる。やる気があれば出来る生徒たちであると思う。プレゼン能力もある。頑張るのは生徒であるが、機会を与えてあげるのが大人の役目であると思う。

(学校教育課長)

頑張る意欲を持っている生徒にはカリキュラムが用意されているということである。

(妹尾委員)

多様な生徒を受け入れることを考えていくとすると、大学進学を目指している生徒に対しても、サポートをするということが高校受験をする段階でわかっていたら安心だと思う。今は玉野市で就職できるとか、市内就職を支援するという事に重きがおかれている。それだけではなく、地域貢献や地元企業との連

携などを学んだ上で大学も受験できるということがあれば良いと思う。

(野田委員) 予算がかかることではあるが、通学代を補助することに限らず、年収が何百万円以下の世帯に対して奨学金のようなものを出し、その子が市内就職したら返済を半額免除、市内居住・市内就職であれば全額免除するなどの制度を考えてもらえるといいのではないか。

部活動でバスを購入をするよりは良いと思う。

(妹尾委員) 奨学金制度や免除制度があると生徒増加に繋がると思う。

(太宰委員) 部活動の充実に関してであるが、今現在、秀でた部や実績のある部はあるのか。

(学校教育課長) どの部活も頑張っているが、秀でたというは今はない。実績でいうと弓道部は中国大会に出場することが何度かある。

(太宰委員) 息子が通っていた時代は、野球部の監督が有名で野球部に多く部員がいた。

(学校教育課長) 公立高校では、この監督がいるからということでの生徒募集は大々的には出来ない。昔も学校がPRしてというより、内々で伝わっていった結果だと思われる。今もある程度、野球部に入りたいという生徒が来ているという話は聞いている。

(加藤委員) 特化することが可能な部活動に対して支援をすると、生徒や学校が喜ぶのではないか。

中学生に対して、何がこの学校の良いところであるとか、先輩たちはこんな風に活躍しているということアピールするということを学校には考えてもらいたい。

他の高校をになじめなかった生徒もちゃんとサポートするというこのアピールもしてみてもどうか。

(学校教育課長) 我々も悩むところではあるが、在り方検討会議での意見でも市立高校の使命とは何かということがあり、市内活性化を目指し、市内就職・市内定住する生徒の増加ということが大きな使命の一つである。そのために何をしていけば良いのかというところである。今後検討することが出来る内容として参考例ではあるが、一人一台端末を整備することや多様な生徒を支援していくことも必要であると考えている。発達障害のある生徒の割合も増えていくと考えられる。今は高校には配置していない学校サポートスタッフを配置することや備南高校で行っているような通級指導をやっていくことも考えることができる。

入試自体の見直しということも考えられる。

(野田委員)

入試の見直しはどのような内容か。

(学校教育課長)

特別入試が今まで以上に各学校の独自性が反映できるようになっているため、そこを特色のあるものにしていく考えを校長は持っている。

(野田委員)

今日の話をした中で、決めなければいけないことは何か。

(妹尾教育長)

今日の意見をこの場だけで決定ということにはならない。魅力化については、意見をいただいたということで、学校とも協議しながら出来そうな部分から考えながら取り組んでいくということだ。学校の意見も聞かなくてはいけない。

(野田委員)

総務文教委員会協議会の中からは、今のままの定員であったらどのようなデメリットがあるのかというような意見はでなかったのか。

(妹尾教育長)

今のままの定員である場合のデメリットについては意見はなかった。

(野田委員)

意見書の中や、校長からの意見を聞いた中では、ゆくゆくは定員削減を避けられないということであった。同窓会も納得し、色々な方がやむを得ないということではなければいけないと思うが、今のままではダメだということは、みんな思っているのか。魅力づくりだけで定員が充足するということは、今後は考えられないと思う。今年は難しいと思うが、来年度再来年度も定員にかなり足りていなかったら考えていかなければいけない。先日も言ったが、倍率が0.7倍というのが続いたら、保護者や中学生は、中身を見ずに人気がない学校だというレッテルを貼る。無理をしてそれを続けるとかなり低学力の生徒が入ってくる。その結果、高校の授業についていけなくて退学者がどんどん出てくる。そうするとなおさら噂が広がり、あの学校は退学する生徒が多いということになり、悪循環である。

160名生徒が常にいるのであれば、玉野市の活性化になると思うが、これだけ生徒数が少なくなっている状態であれば、近いうちに削減しなければいけないと思う。

(学校教育課長)

いずれはということではあるが、もうしばらく様子を見ていきながらということになると思う。

(野田委員)

特に、機械科は、どういうところに就職することが出来たかということはかなり変わってくる。

(学校教育課長)

今までのような生徒指導のやり方を続けていたらいけないと思

う。もっと多様な生徒が入ってくると思うので、厳しい指導だけではついていけない。もう少し日常生活の支援をやっていかないといけない。一部の進学校を除けば全国的に多くの学校が似たような状況になってきている。そのような生徒を取りこぼさないような指導や支援の仕方ということを実現してもらわないといけないと思っている。

(妹尾教育長) 当面は、定員削減を行わず、学校と連携しながらさらなる魅力づくりの取組みを進めていく。適正規模化については学校や様々な意見を聞きながら今後も検討していくということで現時点での教育委員会としての方針としてよいか。

(妹尾委員) 方向性としてはそれで良いと思う。些細なことから一つずつ実行に移していくことが大切である。市立であるということは強みである。県立高校との差別化を図ることも必要ではないか。

(野田委員) 予算のことは市の方にも働きかけをしてほしい。

(妹尾教育長) 取組みについて可能かどうかというところを検討していきながら市の方にも働きかけをする。

次回、教育委員会（定例会）は令和2年6月23日（火）14：00から第1委員会室で開催するので参集願います。以上で、第12回教育委員会（臨時会）を閉会します。

会議録調製者 書記 清山 智保

会議録署名委員 教育長 妹尾 均

〃 教育長職務代理者 妹尾 恵美